

いう内容を説明させていただき、法的な事などについて最低限必要なところは理解した上で、主治医の先生方と連携してもらいたいという点を大事にしました。そうでないと、せっかく先生方が協力してくれているのに、失礼なことをしたら、構築され始めた関係性が破綻してしまうと思ったので。その上で、連携連絡票というツールを動かしていきたいと思ったので、そこは小松さんと相談しながら企画を練ってやったところですよ。介護保険の実地指導する側としては、個別指導でなかなか改善していない事柄が、研修会や説明会を開催したことで理解してくれるようになったので、指導が楽になったというメリットもありました。話がケアマネさんと通じやすくなったというので、個別指導では補いきれないところをお話することができたと思いました。

また、記憶が定かでないのですが、そもそもケアマネジャーさんが何をやる仕事かというところを、行政の立場で医師会の先生方や、気仙沼市立病院の先生方に説明をしました。その上で、なぜ連携連絡票が必要なのかという根回しが、時間がかかったのですけれども、基礎のところをお伝えできたので、運用に役に立ったのだと思います。

あと、在宅医療福祉推進委員会の中に、医師会、歯科医師会、薬剤師会、ケアマネジャー協会の方々がいらっしゃったので、医師会については、森田先生や村岡先生が根回ししてくださって、歯科医師会は菅原先生。薬剤師会は、にこにこ堂調剤薬局の白幡先生が委員でいらしたので、各委員の皆様が、所属する会で調整してくださったのがすごくありがたかったです。もし行政主導で全部やっていたら、私が出向いて各会に説明していたと思うのですが、在宅医療福祉推進委員会の各先生にそれを担っていただいたのですごく助かりました。

武田

この連携連絡票の作成にあたっては、私は一切苦勞していません。私は小松さんに「こういうのがいい。」と好き勝手言っていただけでした。薬局の業務の中でもFAXを使っているんで、ちょいちょい来るんですよ。ひな形は、会社、事務所によって違うため、言わんとしていることがどこに書いてあるのかわからないので、連携連絡票を作るのであれば、統一のものにしてください。そうすることで、言い

たいことがどこを見ればいいのかわかる。小松さんをお願いしたのはおそらくそれだけだと思いますけど。もっと言ってたかな（笑）。

全員

もっと言ってた（笑）。

武田

夢を叶えていただいて、ありがとうございます（笑）。

三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会） で使う「連携連絡票」

村岡

医師会の理事会報告に議題を出した際に、「連携連絡票」は「アポ取り票」だと思ってくださいと説明しました。「アポ取り票」というのは、会うための時間の予約票みたいなもの。「何時に來い」と返信するだけでいい。自分の都合が良い時間帯を指定するだけでいいですって説明しました。

作るのが大変だったのは、小松さんと高橋さんだったのではと思います。

最初に高橋さんが言っていたように、ケアマネジャーさんの質の向上。震災前は、よくケアマネジャーさんを怒っていたことがありました。その辺の底上げを高橋さんがやってくれたことで、十分満足しています。

菅原

連携連絡票について歯科医師会の皆さんに説明した時に、歯科医師には温度差がありました。熱い先生は熱いんですよ。冷たい先生は「あいいんじゃない」って。何に使うのかわかってないと思うんですけど。熱い先生は、これでは足りないって項目を、なんとか入れようとしてみたり。歯科医師用ではなくて、皆で使う連絡票なのに。いわゆる最大公約数的な部分でやるので、我々歯科医師の項目が、少し入ってくれただけで御の字なんですけど。「これでは足りない。」と言われたのを説得するのが苦勞でした。保健福祉事務所の方が、「みんなで使う物ですから。」と説得してくれました。理解してもらった事が苦勞でしたね。

森田

2点ほどあるんですけども。できるだけ受け入れて頂くために、必要かつ簡素化に繋がる項目を選ん